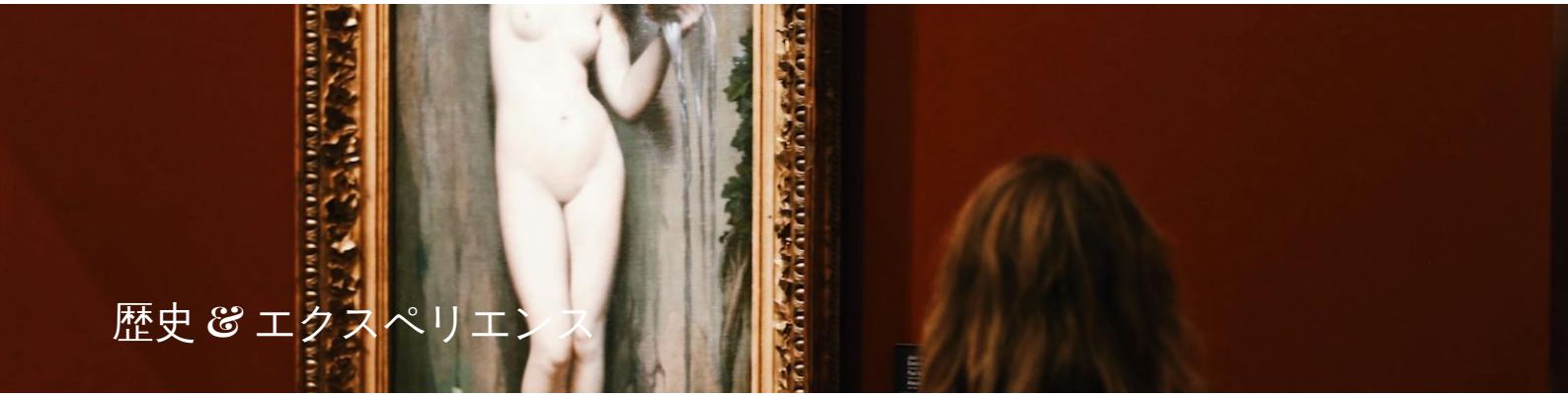


公式観光ガイド 2026

オルセー美術館

パリ・ ~から 13€

https://musee-orsay.visit-tickets.com/ja/・優先入場チケット & 公式料金



歴史 & エクスペリエンス

起源と歴史

駅から美術館への変遷

GOOGLE 4.8 ★★★★★ 113 881 レビュー

TIQETS 4.7 ★★★★★ 17 199 レビュー

パリのセーヌ川沿いに佇むオルセー美術館は、単なる美術館ではなく、産業革命の遺産が芸術の殿堂へと変貌した生きた証です。元々は1898年から1900年にかけて建設されたオルセー駅であり、ヴィクトル・ラルウという天才建築家の手によって設計されました。当初はパリから南へ向かう列車のターミナルとして機能し、その壮大な時計塔と金属構造は当時の技術革新を象徴していました。しかし、自動車時代の到来とともに駅としての役割を終え、解体の危機に瀕していたこの建物は、ヴァレリー・ジスカール・デスタン大統領の決断により救われます。

1986年の開館以来、この巨大な空間は19世紀後半から20世紀初頭の芸術を収容する世界屈指のミュージアムとなりました。**1986**年という年は、フランス文化政策における転換点でもあり、旧駅舎を国立美術館へと再生させるプロジェクトは、歴史的建造物の保存と現代博物館学が見事に融合した事例として知られています。ガエ・アウレンティらによる内装デザインは、元の建築の美しさを損なうことなく、作品展示のための機能的な空間を創出しました。鉄骨と石造りのファサードはそのまま残され、光が差し込むガラス屋根の下で、訪れる者は過去と現在を行き来する感覚を覚えます。

コレクションの核心にあるのは、印象派およびポスト印象派の絵画です。**3,650**点以上の作品のうち、約1,100点の絵画が所蔵されており、これは世界中のどの美術館よりも多い数です。マネ、モネ、ルノワール、ドガ、セザンヌなど、西洋美術史を塗り替えた巨匠たちの作品が一堂に会しています。特に『世界の起源』や『草上の昼食』といった当時としては革命的なリアリズムを持つ作品も含まれており、19世紀の社会的・文化的な変化を如実に示しています。これらの作品は、単なる美的対象を超え、時代の変革期における人々の意識の変化を映し出す鏡となっています。

さらに、2010年にはチュイルリー庭園にあるオレンジリ博物館が法的に統合され、両施設は一つの公営機関として運営されています。オレンジリ博物館との連携により、モネの「睡蓮」シリーズなどの重要な作品を含むコレクション全体を一貫して管理できるようになり、研究者および訪問者にとってより包括的な理解が可能になりました。この統合は、地理的には別個であるものの、芸術的・管理的には密接な関係にあることを示しており、パリの文化遺産保全における新たなモデルを提供しています。今日、オルセー美術館は単なる展示場ではなく、歴史、建築、芸術が交差するダイナミックな文化のハブとして機能しています。

体験

エスプラナードから中に入ると、まず目を奪われるのはその圧倒的なスケールと光の演出です。巨大な時計塔の影が床に落ち、天井からの自然光が廊下全体を優しく照らし出します。かつて旅人が行き交ったプラットホーム跡は、今では静寂に包まれ、足音だけが響く神聖な空間へと変わっています。金属製の梁と石造りの壁が作り出すインダストリアルな雰囲気は、展示されている繊細な印象派の絵画と対比し、独特の緊張感を生み出します。訪れる者は、時間が止まったような錯覚に陥り、日常の喧騒から切り離された特別な世界へと誘われます。

階段を上るにつれて、色彩豊かな世界が広がります。窓際からはセーヌ川とシヨン島のパノラマビューが広がり、外の景色と中の作品が溶け合う瞬間があります。セーヌ川の眺めは、特に夕暮れ時に美しく、作品鑑賞後の余韻を深めるための完璧なフレームを提供します。ここで感じる空気は、単なる観覧ではなく、19世紀のパリ社会への没入体験そのものです。風通しの良い広々としたギャラリーでは、プレッシャーを感じずに自分のペースで芸術と対話でき、心穏やかな時間を過ごすことができます。



訪問の準備

実用的な情報

住所

第7区 ・ メトロ：ソルフェリーノ（12号線）またはRER C オルセー美術館駅。

営業時間

月曜日は休館。木曜日は遅くまで開館（ナイトミュージアム）。特別閉館日を確認してください。

料金

18歳未満およびEU居住者の26歳未満は無料。{promo}。

所要時間

必見の印象派作品を見るには2〜3時間を計画してください。すべてのコレクションに完全に浸るには一日丸々必要です。

写真撮影

私的利用の場合、フラッシュや三脚なしで撮影許可されています。作品前のセルフィーは禁止です。臨時展示時の制限を確認してください。

対象客層

アート愛好家や家族に最適。オーディトリウムでは若年層向けのプログラムを提供しています。エレベーターにより車椅子利用者にもアクセス可能です。

LOCALISATION

Où se trouve オルセー美術館 ?



📍 Esplanade Valéry Giscard d'Estaing — 75007 パリ

🌐 48°51.618′ N, 2°19.510′ E



組織

階層別に見る芸術の進化

Niveau 0 (Rez-de-chaussée)

地下1階および1階の一部には、写真や装飾芸術、そして初期の19世紀アートが展示されています。グスタフ・クールベの『世界の起源』や『オランヌの葬式』といったリアリズムの傑作が見つかります。また、ジュール・シャガールなどの作品も配置されており、19世紀末から20世紀初頭への移行期の様相を理解するのに役立ちます。

Niveau 2

2階は印象派の中心地であり、最も人気のあるフロアです。エドゥアール・マネ、クロード・モネ、ピエール＝オーギュスト・ルノワール、エドガー・ドガらの主要作品が並んでいます。ここでは『草上の昼食』や『ムーラン・ド・ラ・ガレットの舞踏会』など、教科書級の名作と直接対面できます。大きな窓からのセーヌ川の眺めも見逃せません。

Niveau 5 (Terrasse)

5階には彫刻ギャラリーがあり、オーギュスト・ロダンやメダル・ド・ジャネスらの作品が展示されています。また、臨時展示室としても使用されることが多く、最新の展覧会情報を確認できます。テラスからはパリの街並みを一望でき、訪れた際の記念撮影に最適なスポットです。

アクセシビリティ

♿ 車椅子アクセス

エレベーターと予約済み駐車スペースを備えた、移動に制限のある方への完全アクセス。

👨‍👩‍👧 ファミリー向け

オーディトリウムでの若年層向けパフォーマンス、ベビーカーの持ち込み可。

🎧 オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語



必見スポット

選択

必見の名作リスト

01 ピエール＝オーギュスト・ルノワール 2階・印象派ギャラリー

ムーラン・ド・ラ・ガレットの舞踏会

ルノワールの代表作であり、印象派の祭典とも呼ばれる大規模な作品です。モンマルトルのダンスホールで踊る人々の活気と光の表現が絶妙に描かれており、視覚的な喜びをもたらします。画面全体に広がる柔らかなタッチと色彩の調和は、見る者の心を和ませます。

> 💡 この作品は、ルノワールが友人たちを描いたものであり、当時の社交界の様子をリアルに捉えています。**1876**年に制作されたこの絵は、現在でも最も愛される印象派の一枚です。

02 エドゥアール・マネ 2階・印象派ギャラリー

草上の昼食

伝統的な裸婦像の画法を用いながら、現代的な服装の男性と対置することで、社会的タブーを挑発した革命的な作品です。マネの大胆な構図と色彩の使用は、後の印象派画家たちに大きな影響を与えました。視線の方向性や空間の処理にも注目すべき点が多くあります。

> 💡 初公開時には激しい批判を受けましたが、今では西洋美術史において最も重要な作品の一つとして評価されています。**1863**年のサロン・ド・レフュゼマンで発表されました。

03 クロード・モネ 2階・印象派ギャラリー

ルーアン大聖堂シリーズ

モネが同じ対象を異なる時間帯や天候条件下で描いた連作の代表例です。光の変化如何通过色彩の微妙な違いで表現されているかを観察すると、印象派の本質を理解できます。五枚一組で展示されており、比較鑑賞が楽しめます。

> 💡 モネはこのシリーズを通じて、固定された視点ではなく、一瞬の感覚を捉える重要性を強調しました。**1894**年頃から制作が始まりました。

04 エドガー・ドガ 2階・印象派ギャラリー

小さな十四歳の踊り子

彫刻と絵画の境界を曖昧にした実験的な作品で、真の衣装を着た少女の姿が驚異的にリアルです。ドガのバレエダンサーへの関心が結晶化したもので、動きの瞬間性を立体的に表現しています。金属製と布地の組み合わせは、当時の技術的限界を超える挑戦でした。

> 💡 初展示時には、その写実性があまりにも強すぎて、批評家から「不愉快」と評されました。**1881**年にサロンで公開されました。

05 エドゥアール・マネ 2階・印象派ギャラリー

オリンピア

古典的なヌードの伝統を翻弄し、直接的な視線で観客を挑発する強烈な作品です。背景の黒人メイドや猫などの要素も含め、当時の社会構造への暗黙の批判が含まれていると考えられています。マネの筆致の荒さと色彩の平面的さが特徴的です。

06 グスタフ・クールベ 地下1階

世界の起源

女性器を正面から描いた極めて露骨な作品で、リアリズムの極致と言えます。長年議論を呼んできたこの絵は、19世紀の芸術規範を完全に無視した大胆さを持っています。医学的な正確さと芸術的な表現のバランスが興味深いです。

> 💡 国によって購入された後、長い間非公開状態でしたが、現在は常設展示されています。**1866**年に制作されました。

07 ポール・セザンヌ 2階・ポスト印象派

カード遊びをする人々

セザンヌの幾何学的な構成と色彩理論が凝縮された作品群です。立体感の追求のために、輪郭線を明確にし、色面をブロック状に配置しています。静謐な雰囲気の中で、人物の内面や空間の関係性が深く掘り下げられています。

> 💡 プロヴァンスの兵舎で実際にプレイされていたゲームを描いたもので、セザンヌの故郷の情景が反映されています。**1890**年代に制作されました。

08 ギュスターヴ・クールベ 2階・印象派ギャラリー

バルコニー

二人の人物がバルコニーから外を見つめる構図で、都市生活の一コマを切り取ったような親しみやすさがあります。背景の風景と前景の人物との対比が巧みで、19世紀のパリの日常生活を感じさせます。クールベ特有の厚塗りの技法が質感を引き立てています。

> 💡 この作品は、クールベが友人を描いたものではなく、モデルを使った構成的なアプローチを示しています。**1868**年に制作されました。

アドバイス

スムーズな訪問のための秘訣

TIMING
木曜日の夜（ナイトミュージアム）を利用するのが最もおすすめです。人混みが少なく、静かに作品を鑑賞できます。

BILLET
オンラインでチケットを予約し、C入口から優先入場しましょう。待ち時間を大幅に短縮できます。

PARCOURS
1階から始めて、年代順に上層階へ進むのが効率的です。疲れないように、適度に休憩を取りましょう。

PHOTO
2階の窓際からのセーヌ川の眺めは写真映えします。フラッシュなしで撮影可能です。

PAUSE
見学後はエスプラナードのカフェでコーヒー休憩を。セーヌ川の景色を眺めながら芸術を消化しましょう。

ENFANTS
オーディトリウムで開催される子供向けプログラムをチェックし、事前に予約しましょう。家族向けガイドツアーもあります。

AUDIOGUIDE
多言語対応のオーディオガイドを活用すれば、作品の背景知識が深まり、鑑賞がより豊かになります。

CONFORT
歩きやすい靴を履いてください。美術館は広く、2〜3時間の移動が必要です。大型バッグはロッカーに預けます。



よくある質問

よくある質問

オルセー美術館の入場券は予約する必要がありますか？

はい、特に繁忙期や週末にはオンラインでの予約を強く推奨します。これにより、窓口での長い待ち時間を回避できます。さらに、C入口からの優先入場（スキップ・ザ・キュー）を利用できます。

入場料には臨時展覧会が含まれていますか？

はい、単一料金で常設コレクションと臨時展覧会の両方に入場できます。展覧会のために別々のチケットを購入する必要はありません。国立美術館を完全に楽しむための経済的かつ実用的な利点です。

A入口とC入口の違いは何ですか？

A入口はエスプラナードにある標準的なアクセス口で、よく混雑しています。C入口はオルセー河岸にあり、オンラインで購入した優先入場チケット専用です。窓口で待つことなく、迅速かつ直接の入場が可能です。

同じチケットでオランジュリー美術館も訪問できますか？

オランジュリー美術館は2010年以降法的にオルセー美術館に属していますが、チケットは通常別々です。予約時に組み合わせチケットの有無を確認してください。自動的なアクセスを期待しないでください。

オルセー美術館を訪れるベストな時期是什么时候？

開館時の午前（9時30分）または木曜日の夜（ナイトミュージアム）をお勧めします。火曜日（ルーブル美術館が休館のため混雑ピーク）および週末は避けてください。水曜日と金曜日の午後の方が静かなことが多いです。

ご存知ですか？

エピソード＆トリビア

駅からの再生

オルセー駅は1900年の万博に合わせて建設されました。ヴィクトル・ラルウによる設計は、金属構造と石造りの融合という革新的なアプローチを採用し、当時の建築技術を象徴していました。解体危機から救われたこの建物は、今では芸術の宝庫となっています。

印象派の黄金

当館には世界最大級の印象派コレクションがあります。**1,100**点以上の絵画が所蔵されており、モネやルノワールなどの名作が密集しています。この密度の高さは、他のどの美術館也比類がありません。

世界の起源の謎

クールベの『世界の起源』は、その生々しさから長年議論を呼んできました。**19**世紀のリアリズムを体現するこの作品は、国の購入により保存され、現在では重要な文化的遺産として扱われています。

オレンジリとの統合

2010年以降、オレンジリ博物館は法的にオルセーに統合されました。共通の管理により、コレクションの調整や展示の連携が容易になり、訪問者にとってより一貫した体験が可能になりました。

博物館周辺

美術館を訪れた後は、周辺エリアの魅力的なスポットを巡るのがおすすめです。まず、オレンジリ博物館へ足を運び、モネの睡蓮を円形パヴィリオンの中で鑑賞しましょう。ここはオルセーと一体的に管理されており、印象派の集大成とも言える空間です。その後、セーヌ川沿いを散策し、コンコルド橋からエッフェル塔を望むのもロマンチックです。夕食前には、カフェ・ド・ロランジュリーでグルメ休憩を楽しみ、芸術消化に最適な環境を作りましょう。さらに、アンティーク店やギャラリーが集まるヴァレンヌ通りを歩けば、パリの洗練された雰囲気を肌で感じることができます。チュイルリー庭園での散歩も、博物館訪問後のリラックスタイムとして最適です。



オルセー美術館での時間は、単なる見学を超えた精神的な旅になります。木曜日の夜、人混みが消え去った静かな空間で、モネの光やルノワールの笑顔を独り占めできる贅沢は、パリを知る者なら誰しもが憧れる瞬間です。夜のオルセーは、魔法にかかったかのように幻想的で、あなたの記憶に残る最も美しいパリの夜の一つとなるでしょう。ぜひ、この特別な時間を実感してください。